

ハートビル法から変更追加されたバリアフリー新法(正式名称:高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律)が2006年12月20日に施行されました。

バリアフリー新法(以降、新法)ではバリアフリーの対象施設は、公共施設、不特定多数利用者施設における、出入口、廊下、階段、傾斜路、エレベーター、便所、駐車場、ホテル又は旅館の客室等多岐にわたり、特別特定建築物(盲学校、聾学校又は養護学校、病院又は診療所、劇場、観覧場、映画場又は演芸場、集会場又は公会堂、展示場、百貨店等、公共用歩廊)になっています。他にもバリアフリー化の義務付け対象規模として床面積の合計が2000㎡の建物も対象とされています。

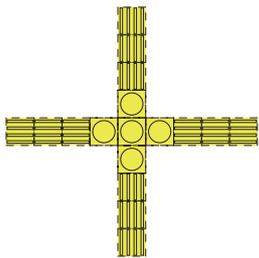
また地方公共団体が条例により拡充追加できるようになっており、地域によってはさらに範囲や条件が定義されています。これら認定基準を満たした建物は所管行政庁の認定として、優遇措置を受けることができる場合もあります。これ以降も努力義務として範囲の拡大が考えられます。

点字表示の設置例

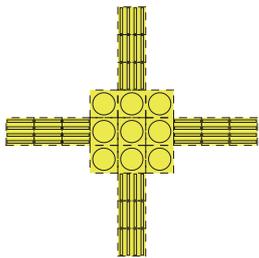
■基本配置パターン



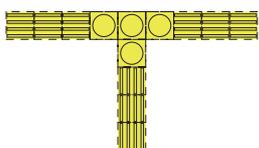
400mm角 十字路



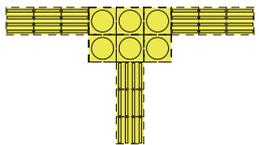
300mm角 十字路



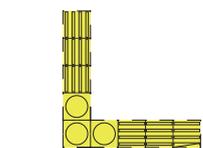
400mm角 T字路



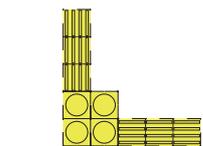
300mm角 T字路



400mm角 L字路



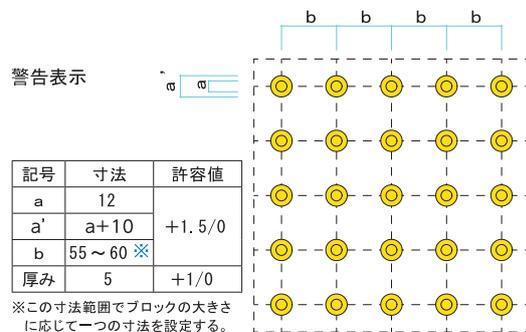
300mm角 L字路



■JIS規格に基づいた配列

■点状突起

点状突起を配列するブロック等の大きさは300mm(目地込み)四方以上で、点状突起の数は25(5×5)点を下限とし、点状突起を配列するブロック等の大きさに応じて増やす。ただし、このブロック等を並べて敷設する場合は、ブロック等の継ぎ目部分における点状突起の中心間距離を【b】寸法より100mmを超えない範囲で大きくしてもよい。

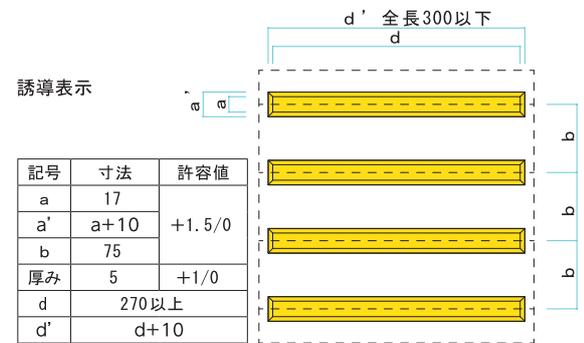


■線状突起

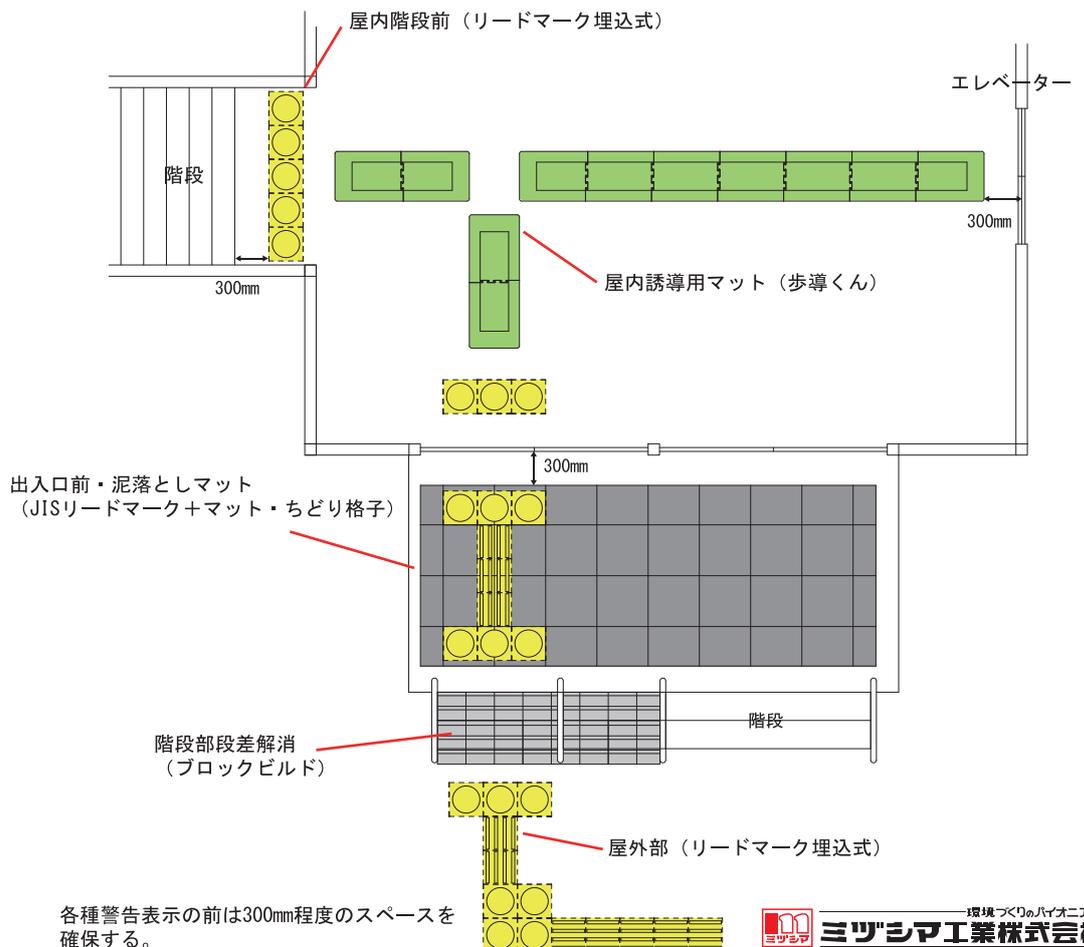
線状突起の本数は4本を下限とし、線状突起を配列するブロック等の大きさに応じて増やす。

■備考

ブロック等の継ぎ目部分(突起の長手方向)における突起と突起の上辺部の間隔は30mm以下とする。



■屋内・屋外における設置例



各種警告表示の前は300mm程度のスペースを確保する。